

シミロン RG-200H

JIS A2種1号相当品

大同化学工業株式会社
技術研究所



1. 特徴

- (1) 低泡性油剤の為、仕上げ面の観察がしやすく、作業性が良好です。
- (2) 防錆力に優れます。
- (3) 腐敗し難く、液寿命の長い油剤です。

2. 一般性状

| | |
|------------------------------|-----------|
| 外観（原液） | 淡黄色～黄褐色透明 |
| 型 | ソリュブル |
| 密度（15℃ g/cm ³ ） | 1. 09 |
| 塩素分（％） | － |
| 硫黄分（％） | － |
| 原液粘度（40℃,mm ² /s） | 3. 2 |
| 以下希釈倍率 | × 50 |
| pH | 9. 7 |
| 有効アルカリ値 | 6. 7 |
| 総アルカリ値 | 14. 4 |
| 表面張力（10 ⁻³ N/m） | 44. 7 |
| 摩擦係数（μ） | 0. 39 |
| 四球耐圧力（MPa） | 0. 15 |
| 耐食性（30℃×48hr）鋼 | 変色なし |
| 〃 銅 | 〃 |
| 〃 アルミ | 変色 |

※ 上記数値は、ラボサンプルの測定値であり規格値ではありません。

試験方法……JIS K 2241 による

摩擦係数 ; 曾田式振り子型油性試験機N-Ⅱ型（標準荷重）

四球耐圧力 ; 曾田式四球型潤滑油試験機（200rpm）

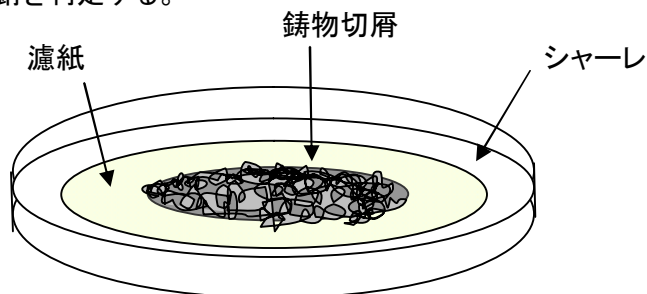
3. 用途

円筒研磨 ロール研磨 ; × 30～50
平面研磨 ガードナー・一般平面研磨 ; × 30～50

炭素鋼・合金鋼・鋳鋼

4. 防錆力(シャーレ濾紙法)

シャーレに直径7cmの濾紙を置き、中央に鋳物乾式切屑7gを直径約5cmの範囲で、均一に置く。希釈液2mlを均等に濾紙の縁に注ぎ蓋をする。3時間後、鋳物切屑を取り除いて濾紙上の発錆を判定する。



- : 発錆なし
- △ : 数点の発錆
- × : 切屑コンタクト部分の1/3以下の発錆
- ×× : 切屑コンタクト部分の1/3以上の発錆

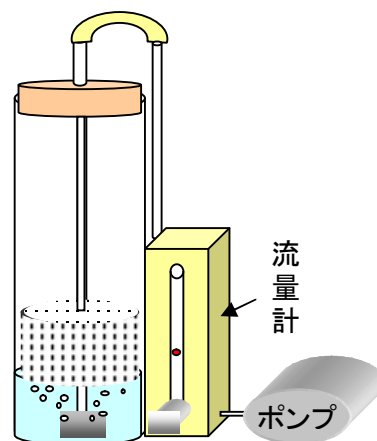
| | × 40 | × 50 | × 60 | × 70 |
|-------------|------|------|------|------|
| シミロンRG-200H | ○ | ○ | ○ | × |
| 弊社従来品 | ○ | ○ | △ | ×× |

5. 発泡試験結果(air吹き込み)

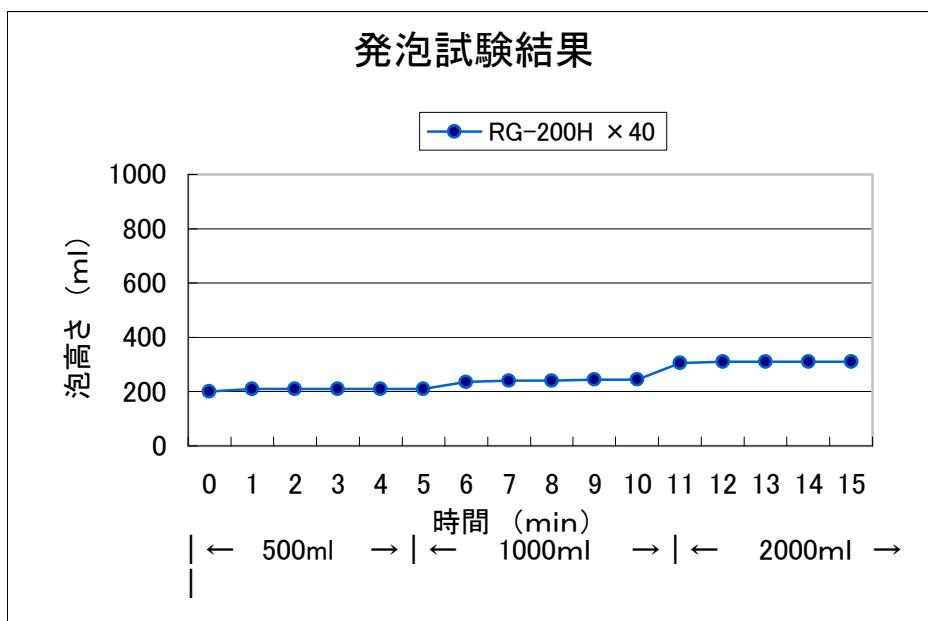
JIS-K-2518の装置を使用し、次の操作を行う。

1Lのメスシリンダーに190mlの試料を採る。
ディフューザストーンよりの空気を吹き込み
発泡量(泡高さ)の推移を観察する。

空気吹き込み量
500ml/min ・1000ml/min ・2000ml/min
(各5分間ずつ連続で行う。)



発泡試験結果



安全データシート

1. 製品及び会社情報

製 品 名 : シミロン RG-200H
会 社 名 : 大同化学工業株式会社
住 所 : 〒639-1037 奈良県大和郡山市額田部北町 1021
担 当 部 門 : 奈良生産技術事業所 品質保証部 (担当者: 森下仁視)
電 話 番 号 : 0743-56-1201
FAX 番 号 : 0743-56-1204
メールアドレス : info@daido-chemical.co.jp

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

| | |
|--------------|---------|
| 火薬類 | : 分類対象外 |
| 可燃性／引火性ガス | : 分類対象外 |
| 可燃性／引火性エアゾール | : 分類対象外 |
| 支燃性／酸化性ガス | : 分類対象外 |
| 高压ガス | : 分類対象外 |
| 引火性液体 | : 区分外 |
| 可燃性固体 | : 分類対象外 |
| 自己反応性化学品 | : 分類対象外 |
| 自然発火性液体 | : 分類対象外 |
| 自然発火性固体 | : 分類対象外 |
| 自然発熱性化学品 | : 分類対象外 |
| 水反応可燃性化学品 | : 分類対象外 |
| 酸化性液体 | : 分類対象外 |
| 酸化性固体 | : 分類対象外 |
| 有機過酸化物 | : 分類対象外 |
| 金属腐食性物質 | : 区分外 |

健康に対する有害性

| | |
|-------------------|----------|
| 急性毒性 (経口) | : 区分外 |
| 急性毒性 (経皮) | : 区分外 |
| 急性毒性 (吸入: ガス) | : 分類対象外 |
| 急性毒性 (吸入: 蒸気) | : 分類できない |
| 急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト) | : 分類できない |
| 皮膚腐食性／刺激性 | : 区分 2 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | : 区分 1 |
| 呼吸器感作性 | : 分類できない |

| | |
|----------------|--------------------------|
| 皮膚感作性 | : 区分 1 |
| 生殖細胞変異原性 | : 分類できない |
| 発ガン性 | : 区分 2 |
| 生殖毒性 | : 区分 2 |
| 特定標的臓器毒性（単回暴露） | : 区分 2 (肝臓) 区分 3 (気道刺激性) |
| 特定標的臓器毒性（反復暴露） | : 分類できない |
| 吸引性呼吸器有害性 | : 分類できない |

環境に対する有害性

| | |
|--------------|----------|
| 水生環境有害性（急性） | : 区分 3 |
| 水生環境有害性（長期間） | : 分類できない |
| オゾン層への有害性 | : 分類できない |

ラベル要素

絵 表 示 :



| | |
|---------------|--|
| 注 意 喚 起 語 | : 危険 |
| 危 険 有 害 性 情 報 | : 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 発がんのおそれの疑い 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い 肝臓の障害のおそれ、呼吸器への刺激のおそれ 水生生物に有害 |

| | |
|---------|---|
| 注 意 書 き | : 4～8 項の安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 JL No.00+04 |
|---------|---|

3. 組成、成分情報

| | |
|-------------|--|
| 単一製品・混合物の区別 | : 混合物 |
| 成 分 | : アミン 無機塩 防錆剤 防腐剤 防食剤 水 |

4. 応急措置

| | |
|--------------|--------------------------------|
| 眼 に入 っ た 場 合 | : 清浄な水で 15 分以上洗眼した後、医師の診断、手当てを |
|--------------|--------------------------------|

- 受けること。コンタクトレンズを使用している場合は、
可能であれば取り除いて洗眼する。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹼で洗うこと。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、無理に吐かせないこと。医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消 火 剤 : 消火薬剤（二酸化炭素、粉末、泡、乾燥砂）
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 特有の危険有害性 : 燃焼する際に一酸化炭素ガス、二酸化炭素ガスの発生のおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用し
て消火する。消火作業は出来る限り風上から行
なう。関係者以外は安全な場所に退避させる。
周囲の設備に散水して冷却する。消火のための
放水等により、製品もしくは化学物質が河川や
下水に流出しないよう適切な処置を行なう。
- 消火作業者の保護と予防措置 : 消火作業者は燃焼ガスを吸い込まないように注
意すること。また、適切な保護具（手袋、マ
スク、眼鏡等）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する予防措置 : 漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の
立入りを禁止する。
- 環境に対する予防措置 : 流出した製品が河川や下水に排出され、環境
への影響を起こさないようにする。大量の流
出には盛り土などで囲って流出を防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : ウェス、吸着マット、乾燥砂等に吸収させ、
紙袋またはドラム等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除
く。回収物の収納容器は、内容物の処分を行
うまで密封しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取 扱 い : 火気、静電気、衝撃火花等による着火源が生じないよう注意し、
換気の良い場所（全体又は局所排気装置設置場所等）で行なう。

- 接触、吸入防止のため、適切な保護具（手袋、マスク、眼鏡等）を着用する。
- 取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔等を十分に行なう。
- 保 管 : 冷暗所に保存し、火気、熱源より遠ざけること。
可燃物を近くに置かないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設 備 対 策 : 取扱いは全体又は局所排気装置設備を設置した場所で行なう。
- 管 理 濃 度 : 設定されていない。
- 許 容 濃 度 : 設定されていない。

保 護 具 :



保護めがねの着用



マスクの着用



保護手袋の着用

- 呼 吸 用 保 護 具 : 状況に応じ有機ガス用防毒マスクを着用すること。
- 手 の 保 護 具 : 状況に応じ非浸透性手袋を着用すること。
- 眼 の 保 護 具 : 状況に応じ保護眼鏡を着用すること。
- 皮膚及び体の保護具 : 状況に応じ定められた作業衣等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

- | | | |
|-----------------------|---|------------------------------------|
| 外 観 | 等 | : 淡黄色～褐色透明液体 |
| 密 度 | 度 | : 1. 0 7 (15°C g/cm ³) |
| 粘 度 | 度 | : 3 (40°C mm ² /s) |
| p H | : | 9. 7 (×50) |
| 溶 解 性 | 性 | : 水に溶解する |
| 引 火 点 | 点 | : 測定できず |
| 可 燃 性 | 性 | : なし(但し水の蒸発後は可燃性となる) |
| 発 火 点 (自 然 発 火 温 度) | : | データなし |

10. 安定性及び反応性

- 化 学 的 安 定 性 : 常温で暗所に貯蔵・保管された場合安定である。
- 危 険 有 害 反 応 可 能 性 : データなし

避 け る べ き 条 件 : 火気, 静電気, 衝撃火花, 高温物等
混 蝕 危 険 物 : 強酸化剤との接触を避ける。
危 険 有 害 分 解 生 成 物 : 燃焼の際は、煙、一酸化炭素、二酸化炭素ガス等が生
成されるおそれがある。

1 1. 有害性情報

| | |
|------------------|---------|
| 急性毒性 | : データなし |
| 皮膚腐食性／刺激性 | : データなし |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | : データなし |
| 呼吸器感作性 | : データなし |
| 皮膚感作性 | : データなし |
| 生殖細胞変異原性 | : データなし |
| 発ガン性 | : データなし |
| 生殖毒性 | : データなし |
| 特定標的臓器毒性（単回暴露） | : データなし |
| 特定標的臓器毒性（反復暴露） | : データなし |
| 吸引性呼吸器有害性 | : データなし |
| その他 | : データなし |

1 2. 環境影響情報

| | |
|---------------|---------|
| 生 態 毒 性 | : データなし |
| 残 留 性 ・ 分 解 性 | : データなし |
| 生 態 蓄 積 性 | : データなし |
| 土 壌 中 の 移 動 性 | : データなし |
| オゾン層への有害性 | : データなし |
| そ の 他 | : データなし |

1 3. 廃棄上の注意

残 余 廃 棄 物 : 危険有害性情報に注意し、地方自治体又は国の法律に従
い処理すること。外部委託時は、都道府県知事の許可を
受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

汚 染 容 器 及 び 包 装 : 空容器には残油があるので、空容器の切断、溶接、穴あ
け等の加工をしないこと。空容器は製品の保管及び輸送
する目的以外での再使用はしないこと。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国 連 分 類 : 該当しない
国 連 番 号 : 該当しない
容 器 等 級 : 該当しない

国内規制

輸送又は輸送手段に関する特別 : 輸送に当たっては、消防法、危険物の規則等の
の安全対策 基準に従うこと。

1 5. 適用法令

消 防 法 (危 険 物) : 該当しない。
労 働 安 全 衛 生 法 : 第 57 条 表示対象物質を含有しない。
第 57 条の 2 通知対象物質を含有する。
(物質名) トリエタノールアミン 酢酸ナトリウム
化学物質排出把握管理促進法 : 該当しない。(含有する ホウ素分 0.9wt%)
輸 出 貿 易 管 理 令 : 対象内 該当 トリエタノールアミン
航 空 法 : 該当しない。
港 則 法 : 該当しない。
海 洋 汚 染 防 止 法 : 該当しない。
船 舶 安 全 法 : 該当しない。

1 6. その他の情報

引 用 文 献 : 化審法 既存化学物質 ハンドブック第 4 版 化学工業日報社
GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作
業場内の表示及び安全データシート (JIS Z 7253:2012)
問 い 合 わ せ 先 : 大同化学工業(株) 品質保証部 TEL 0743-56-1201
FAX 0743-56-1204

※ 記載内容は現時点で入手可能な資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、化学製品を安全に取扱うための参考情報として提供されるものであり、安全を保証するものではありません。また、記載内容の含有量、物理化学的性質等についても保証されるものではありません。

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。

すべての化学製品には未知の有害性が考えられますので、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において安全な条件を設定下さるようお願い申し上げます。